

特 209

334

127

436

高崎能樹著

個性本位の教養の仕方

宗教々育図書刊行會出版



* 0052722000 *

0052722-000

特 209-436

個性本位の教養の仕方

高崎能樹・著

宗教々育図書刊行會

昭和5

AHP

特 209

334

127

436

崎能樹著

個性本位の教養の仕方

宗教々育圖書刊行會出版

特209
436

個性本位の養育の方

高崎能樹 著

函

子供の養育
二十五年の
経験に基づく
實際的指導法



目次

- 一、子供の特性と氣質……………一
各個人の特性——個性本位の教養とは——四つの氣質の長短
- 二、子供の特性調査法……………一〇
子供の特性は誰が知るか——特質の調べ方
- 三、氣質本位の教養法要領……………二〇
長所と短所——教養の目標——教養の要點——助長すべき點を重ぜよ
- 四、落つかぬ子と
永續させぬ子と實際的指導法……………二九
遊びを活用せよ——落つかぬ子の指導法——永續させぬ子の指導法
- 五、神經質の子供の育て方……………四一
神經質の原因——神經質の子供の特徵——神經質の子供の育て方
- 六、膽汁質の子供の育て方……………五三
膽汁質の子供の特徵——強情者の導き方——思ひやり無き子の導き方

七、粘液質の子供の育て方……………六四

粘液質の子供の特徴——粘液質の子供の導き方——實際的指導の色々

八、鈍くて遅い子供の指導法……………七六

筋肉運動の指導——精神運動の指導

個性本位の教養の仕方

高崎能樹 著

一、子供の特性と氣質

(一) 各個人の特性

十人十色と皆人々は違つた特性を有つてゐます。両親を同じうする同じ血を分けた兄弟でさへ決して一樣ではありません。むしろ各自違つた特性を有つてゐる所に人間の價値があり、生甲斐があるのでありませう。けれども他の動物を對照にして見るとお互ひは人間として共通する點が又甚だ多いわけでありませう。でありますから、その特性も人間全體から見ると、類似した點や共通した點があつて、それを分類して、幾

つかの特性に分つ事も出来るのであります。

全體各個人の特性と云ふものは何うして生ずるかを前以て知るべき必要がありません。まづそれを二つの要素に分けます。第一は「**先天的要素**」でありまして、生來の氣質と、天賦と、男女の性別から來るものと小分け致します。それから第二が「**後天的要素**」でありまして、生後の境遇と教育とが即ちそれでありまして。……………今少しこれを精しく申述べて見ませう。

(A) 先天的要素は、祖先の遺傳が多分に手傳つて、氣質又は天賦として大體の型が生前から定つてゐるのであります。それから男は男らしく、女は女らしく生れついでゐることをも含めて申すのであります。

氣質は普通に多血質(浮性)、神經質(鬱性)、膽汁質(熱性)、粘液質(冷性)、と四つに區別いたしますが、これがむしろ各人の特質の中心であります。

それから天賦と申しますのは、記憶力の強い人とか、數學の才能に秀でた人とか、

技藝に巧みな人とか、文章の上手な人とか云ふ風に特殊な、先天的才能を有つて生れた事を云ふのであります。之が氣質と異なる點は『天賦は一部に關するもの』であり『氣質は全體に關するもの』であります。……………そして普通に天賦のことを秀才と、凡才と秀才とに區別して呼んで居ります。

男女の性別から來る特色は、第一に男子は精神作用が發動的進取的であつて、女子は受動的、保守的であります。次に男子の想像作用は抽象的、獨創的(發明、發見、計畫に適す)であつて、女子は具體的、模倣的(實施、實現、應用に適す)であります。更に猶ほ男子の意志強さに對して女子は感情強く、男子が遅く氣がつき、ゆつくり語り、ゆつくり行ふに對して女子は速く氣がつき、早くしやべり、早く行ふと言ふ風に相違した特性があるのであります。

(B) 後天的要素は、生後の「**環境と教育**」とに依つて先天的な特性を更に練磨し、或は矯正して、愈々各人の品性を構成してゆく點を云ふのであります。本來の型は

失はれざるも、その内容は益々習熟し、固定して、愈々その特性が明確になつてゆくのであります。

(二) 個性本位の教養とは

個性本位の教養とは換言すれば、先天的素質に對して如何に後天的指導を爲すべきか……と云ふ事でありまして、まづ第一に各個人の先天的素質を見定むることが必要であり、第二には其の素質を善導する爲めに彼を如何なる環境に置き、且つ如何なる教育を施せばよきかを見定めた上實施することでありませう。

(A) 先天的素質の觀察と調査 先天的素質の中で一番早く生活様式に現はれて來るのは氣質でありまして、満三年頃よりほゞその見當がつき、四年五年となれば、かなり明白になつて參ります。

然し實際は一つに偏せず様々と混合して現はれるのでありまして、只その内に特に浮き出して來るのが即ちその人の特質であります。又未成熟期は多血質或は神経質傾向に著しく變じ成熟期は胆汁質傾向に著しく變ずると云ふ風に、年齢に依つても變化があり。——更に病氣の際は著しく神経質的傾向に走ると言ふ風に健康状態に依つても變化が生じます故、あらゆる方面を考慮し、且つ調査した上でなければ容易に判断する事も出來ないわけでありませう。

それから又その人の特質が早く表現される人もあり、又遅れて表現される人もあります故、これ又一概に満三年頃より氣質が知れると斷言は出來ませんが、然し私の多年の経験によれば普通兒童に於ては、凡そ満三年頃より氣質は立派に現はれ出すのであります。

次に天賦は満六年頃に於て現はれ出し、男女の特性もその頃から著しくなつて參ります……即ち各人の特性は幼稚園時代に於て現はれ初め、青春期までに急速に發達して、一生涯の風を決定するに至るのであります。

(B) 個性本位の教養時期 精神發達の飛躍期は廿歳までゞそれまでに教育を終らねば、後は勞多くして効少しと云ふわけではありますが、人間の品性の決定期とも云ふはむしろ生理的に一人前の男女となる十五六歳で、その人の特性も又此の時期に殆んど一定して仕舞ふのであります。

そして、特性の見え始めるのが前述の如く滿三四年頃でありとするならば、個性本位の教養は滿三四年より初めて、十五六歳には凡そその形を成就せねばならぬと云ふべきであります。

個性本位の教養は、先天的素質に對してその良き所を助長し悪しき所を矯正することであると先きに申述べましたが、助長するにも矯正するにもすべてその初期に於て之に努めねば効果がありません。……即ち幼稚園時代こそ個性本位の教養を爲すに無二の好時期であります。

幼稚園時代は一言にして云へば智慧の出初むる時期、癖の出初むる時期、氣質の見

え初むる時期でありまして、獨自性を建設する爲めに今漸く進出した際であります。されば此の時を期して彼の獨自性に對して教養の銖先を向けることはこれ眞に至當なる事であります。

(三) 四つの氣質の長短

個性本位の教養は、何よりも氣質の長短をよく諒解して、それを善導することが一番大切であります。そして其の善導法を以下精細に申述べたいのでありますが、先づその前提として、四つの氣質の長短と教養の目標とを簡単に列舉して置きましょう。

(A) 多血質(浮性)——(イ)精神の働き速かで弱い。(ロ)深く考慮せずして行動する。(ハ)外物の爲めに心を動かし易い。——故に教育の如何に依つては「敏活で行届く人」ともなり、「輕卒で忍耐力乏しき人」ともなる。

此の氣質の子供は幼稚時代に如何なる生活様式を表はすかと云ふに「積極的で、元

氣がよくて、少しも勤勞を厭はない」のが美點で、「不注意で、落着がなく、永つゞきがせぬ」のが缺點であります。されば教育の目標は「注意の養成」と「意志の訓練」と「何をすることも意識的にして、必ずそれを貫徹する事」を教ふべきであります。

(B) 神經質(鬱性)——(イ)精神の働き遅くて強い。(ロ)深く考へて容易に決断せぬ。(ハ)されど一度決すれば動かし難い——故に教育の如何に依つては「着實で綿密な人」ともなり、「憂鬱で優柔不斷の人」ともなる。

幼稚時代に表はるゝ生活様式は「無性で実行力無きこと」が缺點で、美點とも云ふべきものは殆んど表はれません。されば教育の目標は「勤勞」と「協同生活」とであります。

(C) 膽汁質(熱性)——(イ)精神の働き速かで強い。(ロ)物事に感動し易きも而かも意志は強い。——故に教育次第では「熱心、勇敢、忍耐の人」ともなり、「傲慢、剛情、無謀の人」ともなる。

幼稚時代には「強情」と「思ひやりの無き事」とが生活様式の缺點で、「何事でも積極的に斷行すること」が美點であります。されば教育の目標は「同情心の養成」と「謙讓の態度」を養へることでありませぬ。

(D) 粘液質(冷性)——(イ)精神の働き遅くて弱い。(ロ)思慮舉動共に緩慢で、物事に動かされ難い。——故に教育の如何に依つては「誠實沈着の人」ともなり、「冷淡不活潑の人」ともなる。

幼稚時代の生活様式は「忠實」なのが美點であつて「感じがにぶいのが缺點」であります。故に教育の目標は「敏速に思考して行動する訓練」が中心點であります。

なほ四つの氣質に就て矯正すべき點と助長すべき點とを比較すれば次の表の如くであります。

氣 質	矯正すべき點	助長すべき點
多血質	落つき無く永つゞきせぬ點	快活で氣輕な點
膽汁質	強情で思ひやり無き點	剛氣で実行力に富む點
神經質	実行力無き點	眞面目で思想力に富む點
粘液質	物事に感じない點	寛大で忍耐力に富む點

二、子供の特性調査法

(一) 子供の特性は誰が知るか

子を見ること親に如かず……と昔の人が申してゐますやうに、子供の性格は朝夕一緒に生活してゐる親が一番よく理解する事は當然であります。實際親は他人の誰よ

りも其の子をよく理解するのでありますが……もしわが子の特性を理解し得ない親がありますならば、それは愛の爲めに目がくらんで、悪い方面が看過されて仕舞ふからで、あばたも笑窪で好くばかり見えるからであります。

又子供の特性は大抵親の特性と同じで結極親自身の問題となるわけでありまして『自分の急所には出来る丈け觸れたくない』と言ふ人情で萬事を曖昧にし、又短所は一面長所とも見られる爲めに自負心の強い親は、親に似た子供の短所を矢張り長所とのみ見て仕舞ふのであります。

それで子供の特性を看破するには、冷靜に公平に忠實に、人情を超越して批判し解剖せねばならぬわけで、子供の爲めに親は餘程賢明にならねば、尊いその職責は盡せないのであります。更に又子供の生活は家庭にのみ限られてゐるものでなく交友の間にこそ自由で楽しい生活があります故、むしろ本性はそこに露骨に表はれるのであります、幼稚園とか學校とか、或は平常の交友中に表はれる彼の生活振りを精細に調

べることが大切であります。

時として親よりも幼稚園の保姆の方が、其の子の個性をよく知つてゐるのは此のわけで、冷靜に公平に交友中の彼を観察することが出来るからであります。それに又家庭に於ては自由が束縛されてゐる爲めに本性を表はし得ないでも、交友中では露骨に表はす……と云つた事柄が實際中々多いのであります。

其の子の特性が初めて生活中に浮き出して來るのは満三年以後で、お友達との遊びが段々盛んになつて行く時代でありますから、むしろ彼の本性を知るには家庭の中の彼の生活振りよりも、交友中の生活振りの方が特性調査の重要な材料となるのであります。……されば賢明な親は意をその邊に用ひて、幼稚園との連絡、小學校との連絡、平常の交友中の監視を怠らないのであります。

(二) 特質の調べ方

前に「子供の氣質」に就て精細に申述べましたやうに、子供の特徴は最初中々分らないもので、色々な氣質が混雜して表はれるのが普通で、それを冷靜に誠實に観察してゐると、混雜してゐる内にも又特別に際立つて表はれて來る習性があつて、それが即ちその子の特質であるとして差し支へない、と申し上げました。

即ち氣質は幼稚園時代から出現して來るとは申しましたが、最初は矢張混雜してゐて分り難いのが常であります。それでありませうから、便宜上幾つかの習性をカードに記入して「まづわが子の特性らしい」と感ずるものを拾ひ集め、それを總合して判断することがよいのであります。

それに就て一番参考になる特性のカード表を左に掲げませう。

- 1 「ふさがち」の子供
- 2 「かんじ易き」子供
- 3 「うつりぎの」子供

- 4 「心配しすぎ」の子供
- 5 「あはて易き」子供
- 6 「亂暴なる」子供
- 7 「高慢なる」子供
- 8 「剛情なる」子供
- 9 「虚榮心のつよき」子供
- 10 「不遠慮なる」子供
- 11 「無頓着なる」子供
- 12 「多情多感なる」子供
- 13 「他害を喜ぶ」子供
- 14 「恥かしがる」子供
- 15 「ぼんやりしたる」子供

- 16 「氣が散り易き」子供
- 17 「なまける」子供
- 18 「早熟する」子供
- 19 「空想する癖のある」子供
- 20 「好奇心のある」子供
- 21 「不規律な」子供
- 22 「おちつかざる」子供
- 23 「不器用なる」子供
- 24 「馬鹿げた事をする」子供
- 25 「貪慾なる」子供
- 26 「蒐集癖のある」子供
- 27 「人を欺く」子供

- 28 「盗心のある」子供
- 29 「氣に入らぬ様に見ゆる」子供
- 30 「そねみ心のある」子供
- 31 「慘酷な事をする」子供
- 32 「みだりがましき」子供
- 33 「こわし好きの」子供
- 34 「虚言つく」子供
- 35 「怒り易き」子供
- 36 「粗暴なる」子供

以上は醫學博士笠原道夫氏の「教育病理學」中にある破格兒童の分類法で、幼稚園時代から小學校時代にかけての子供に就て調べられる標準であります。更に私は自分で考案した幼稚園時代を中心としたものを御紹介いたしませう。

- 一、陽氣か陰氣か
- 二、氣なが、氣短か、
- 三、氣か付くか氣がつかぬか
- 四、感じ易いか感じがにぶいか
- 五、激情か冷靜か
- 六、でしやばりか、ひっこみか
- 七、熱中するか、うわつつらか
- 八、永つゞきするか移り氣か
- 九、はしつこいか、のろいか
- 十、大膽か臆病か
- 十一、すぐするか不精か
- 十二、あつさりか、しつっこいか、

- 十三、そそつかしか、御念入りか
- 十四、氣強いが氣弱いか
- 十五、進取的か保守的か
- 十六、騒しいか静かか
- 十七、亂暴か丁寧か
- 十八、ませてゐるか、おくらせてゐるか
- 十九、ガサ／＼してゐるか、おつとりしてゐるか
- 二十、器用か不器用か

以上の二十項が即ちそれではありますが、これは對比的になつてゐます爲めに、時として何れでも無いと云ふ場合が生じます即ちでしやばりでも無く、ひつこみでも無い、所謂中庸であると云ふやうな場合であります。こんな時は（中）とその欄に記入するのであります、こんな事柄を調査して総合して見ると其の子の特性が明かにな

つて來るのであります。

更に前以て氣質表を掲げて置いて、それに自分の子供の性情を當てはめて見ることも一方法であります、特色の無い子供は中々當てはめ難い點もあり、又本來の性情でなしに、家庭の躰けが影響して變態的に表はれてゐる場合もあります故、真相をつかむには中々苦心を要します。

参考にまで日常生活中に表はれる氣質的特徴表を今一度掲げませう。

- 一、多血質 落つかぬ。永つゞきがせぬ。不注意。意識的に（よく考へて）事をせぬ。陽氣で身輕で勤勞を厭はぬ。あつさりしてゐてはしつこい。感じ易くて醒め易い。
- 二、神經質 不精で勞働を厭ふ。考へ深いが中々決斷しない。容易に周圍から動かされない。陰氣でひつこみ思案ばかりしてゐる。眞面目であるが激し易い。身體は瘠せて顔色が黒い。意志は弱い。
- 三、膽汁質 剛情で思ひやりが無い。果斷であつて思慮は深い。大膽で亂暴で熱中

する。激情ではあるが勇敢である。進取的で何でも習得して行く。

四、粘液質 感じがぶく動作が遅い。真面目で永續きとする。決断心が無く、念が入りすぎる。冷静で容易に人に動かされない。保守的で靜的である。

三、氣質本位の教養法要領

(一) 長所と短所

例へば、多血質の子供は氣輕で、身輕で、明るくて、少しも勤勞を苦にしないで、お世話やきで、元氣がよくて、愉快な氣持ちで、あつさりしてゐて、それでゐてよく氣が着いて、又熱心もあつて、非常に人から可愛がられ、調法がられる特徴を持つてゐますが、然し缺點を數へ上げて見るとこれ又澤山に御座います。

まづ落つきが無くて、永つゞきがしなくて、不注意で、忍耐力が乏しくて、移り氣

で、輕卒で、物ごとを徹底する力が無くて、飽き易くて、無思慮で、萬事が淺薄で、しくじりが多くて終ひには失墜落膽して志が挫けてしまふ……のが著しい缺點であります。

こんなわけで、多血質の子供は一寸見ると利巧さうで、可愛らしく、見榮がよく、優秀に見えますが、實際は實力が無く淺つかじりで色々なテストをやつて見ると、さつぱり出来ないと言ふ始末なのです。——つまり多血質の子供は、出しやばりで積極的ではあるが「意識的でない爲めに無力である」と云ふ悲しい結論になるわけで、親としては最も注意を要する、氣がかりな子供であります。

又顔色は血氣に漲つてゐて美しいし、身體も健康にめぐまれてゐることが一見して分る程なので、見榮えが好い爲めに、最初は誰でも買ひかぶつてしまひますが、暫くたつと實力の無い事が分つて誰でも失望して仕舞ひます。こんな風ですから兩親でさへも、實價以上に思ひ過ぎて「好い子供、利巧者、頭腦明敏」と考へ、もし學業の成

績でも悪いと、責任を受持ち教師に負はせて非難する如き矛盾をさへ敢へてすることが多いのであります。

(二) 教養の目標

元來氣質と云ふものは生得的なもので、多くは親から受継いだ遺産でありますから、親の立場として、子供をのみかれこれ非難すべき筈のものではありません。むしろお詫心を持ちつゝ親切と同情とを以てその缺點を矯正し、美點を助長せしむることに骨折らねばなりません。

ところで長所を助長する働きは、上げ潮に舟を乗るやうなもので、その傾向に添ふて奨励すれば濟むやうなわけで、別に困難なことではありませんが、缺點を矯めると云ふことは其の傾向や流れと反對してゆかねばならぬので實に困難なことであります。子供の身の上になつて見ても、自分の傾向や持前に對していつも消極的に禁止さ

れたり、抑制されたりばかりするのですから不愉快なわけです。ですから矯正法と云ふものは必ず子供に嫌はれます。

それから又長所と云ふものはそれが直ちに缺點であります。例へば「氣輕で、身輕で、いそ／＼立働く」と云ふことは善意に解釋するからこそ、之が多血質の子供の美點であり長所ではありますが、惡意に解釋すれば「落つきがなくて、輕はづみで、淺薄だ」とも申されませう。……ですから長所を助長すると云つても、短所を矯正すると云つても、何處を境に定むべきか中々分りません。うつかりすると「氣輕で、身輕でいけない」と云ふやうな事にもなつてしまひます。……實際惡意に解すればさうも云はれるでせう。

それですから、もつと根本的に多血質の者の弱點を調査し、これが此の人を禍ひしてゐるのだと云ふ病原を發見して、それを治療すると云ふことにせねばなりません。一つ一つこと細かに云はずとも『斯うさへすれば、すべての傾向が好くなつてゆ

く』と云ふ要點があるべきだと思ひます。

故に教養の目標として大切なことが二つあると存じます。即ち一つは、全體の傾向を好轉させる要點を見付けて、骨折ること。……今一つは子供が嫌がらぬやう、興味深く指導して殆んど遊戯のうちに缺點が矯められるやうにすること。以上二點を正しく定めてかゝりさへすれば、多血質と云はずどんな性質でも好轉させることは容易なのであります。

(三) 教養の要點

多血質の子供を好轉させる第一の要點は落付きを與へること、第二は永つゞきのする習慣を養ふこととあります。……斯う云ふと實に簡單であります、實際はそれが出来ないのが彼等の特徴で、結極は矢張り矯正法になつて仕舞ふわけであり、す。けれども、實際のやり方に於て興味深く遊戯的に指導すれば、子供は矯正されて

あるとも気づかず、大に氣乗りして努めるやうになるので、遂には子供自身が楽しく遊びつゝ自らを矯正すると云ふ事になるのであります。

殊に氣質の善導や矯正は、氣質が浮き出し初むる初期に於てすることが一番好い方法で、何事もその初期に於て手がけさへすれば好轉し易いのであります。然りとすれば、氣質の好轉作業は何時頃が最も好いかと云ふとそれは幼稚園時代から小學校の低學年まで、此の時期を過すと次第に困難になるのであります。——それに此の時期は遊戯時代とも云ふべき時代で、様々の遊びに仕組んで實施すれば、子供たちは大喜びでそれに應ずると云ふわけで、實驗上から云つてもたしかに好果ある時期であります。

故に私は今後その實際的指導法に就て精しく申述べたいのであります、まづ順序として教養の要點を略言して置きませう。

(一) 落付きを與へること……が多血質の子供を好轉せしむる第一要件であるこ

とは前に申し述べましたが、それに就てどんな方法をとる事が良いのであるか、以下細別して申し上げます。

(A) まづ静かに熟慮する習慣を養はねばなりません。

(B) それから注意を集中するお稽古が大切であります。

(C) 更に忍耐力を養ふことが必要であります。

(D) 最後に自己統制の訓練をする事が最も重要であります。

これが大體の要領であります。一つ／＼別々に訓練することは實際に出来るものでなく、全體を総合的に取扱つてゆく法がむしろ賢明な方法であります。

もしこれを遊戯に仕組んで実施する如き場合には、期せずして静かに考慮もさせ、注意も集中させ、自己統制もさせると云ふことが一つの遊びの中に含まれて出来ることになるのでありまして、實際は分解的に一つ一つの的を定めてゆく必要も無くなるのであります。

(二) 次は永つゞきさせること………であります。それに就いてどうすれば良いかと申しますと、左の如くであります。

(A) 完成の喜びを熱望させるやうに指導すること。

(B) 次は意志の段錬に全力を注ぐこと。

(C) 毎日規律ある課業を課して漸次に仕上げさせること。

(D) 忍耐力の養成。

(E) 注意力の練磨。

これが要點であります。工夫し構成する手工作業などは最も之に適したもので、子供の趣味に合致し、知らず／＼の内に楽しく成就してゆくものが一番よいのであります。又意志の鍛錬と云ふ方面から申しますと筋肉運動が一番よいわけでありまして、ゲームの形式を取つたり、體操の形でやらせたり、又池掘りの如き作業で實行させる事もよいのであります。

(四) 助長すべき點を重ぜよ

多血質の子供は以上の如く缺點の矯正に賢明なる方法を講ずることに依つて、好轉させることが出来るのでありますが、持前としての美點はそのまゝ助長して積極的に開發させる事をも忘れてはなりません。元來多血質の子供は教育の仕やうに依つては「敏活で行き届いた人」ともなり、又「輕卒で忍耐の乏しい人」ともなるわけで敏活で行き届いた人とする爲めには、持前の美點を助長し、且つそれを注意深く意識的に事をするやうに訓練すればよいわけでありませぬ。

輕卒で忍耐力の乏しい人に成さぬ爲めには、意志を鍛練し落つきを與へる事に依つて目的が達せられるのでありますが、これは前にのべた教養法を應用すればよいのであります。又多血質の子供は大體から云ふと(一)精神の働きが速かで弱く、(二)外物の爲めに心を動かされ易く、(三)深く考慮せずして直ちに行動する點が缺點で、

(A) 勤勞を厭はず、(B) 速かに環境に順應し、(C) 何事にも屈託せぬ點が美點で、是非その美點は助長してやりたいものであります。

勤勞を厭はぬ美點があればこそ、すべての作業も、手工も、遊戯も、都合よく實施され、環境に順應する力があればこそ一切の事に興味を持ち得、何事にも屈託せねばこそ失敗しても又再び試みる力も湧き起るので、之を助長する事に於て又彼の缺點を救ふことも出来るのであります。

四、落つかぬ子と永續させぬ子の實際的指導法

(一) 遊びを活用せよ

楽しく愉快に遊ばせながら、而かもそれを教育的に活用して智能を發達させたり、氣質を好轉させたりすることが出来るものとすれば、これ程優秀な教育法は無い

と存じます。然るに遊びそのものが即ち生活であるところの幼児時代に於ては、この教育法が苦も無く出来るのでありますから嬉しいではありませんか。

遊戯と学習と生活とが三位一體となつてゐる幼児時代では、教養の根本原理から申しましても、教養の手段を遊戯に持つて行く事は當然で、それを抽象的な訓誡や、論理的な説明や、甚しきは消極的な叱責などでやつて行かうとする事は大間違ひであります。斯う云ふわけで、私は氣質の好轉（缺點を矯め長所を助長すること）と云ふ事も矢張り遊戯とか競技とかを中心として、子供は自分が矯正されながら、而かも興味と張合ひとを以て其の事に努めて行くやうに指導して參ります。

以前私の幼稚園に来て居られたお嬢さんで、多血質の特徴を著しく表はし、寸時も落着いて居られぬ爲め、何のお稽古も不徹底に終ると云ふ氣の毒なお方がありました。そこで私は御両親に此の事を打明けて「少しお宅でも落つくお稽古をさせて上げし下さい」とお願いいたしました。するとお父様は早速その日から落つきのお稽古に

取りかゝられたと云ふわけで……『A子！ お前は幼稚園でも、ちよつとも落ついてゐないさうだ。これから毎日五分づゝお父様と落つきのお稽古をするんだぞ。さあ私の前におつとお座りなさい』と云ふやり方で、テーブルを隔てゝ親子は口を堅く結び、嚴肅に沈黙したまゝ見詰め合はれたのであります。

するとお嬢さんは三分もたゝぬ内に泣き出してお仕舞ひになる、お父様は「とても此の子は駄目だ」と失望してお仕舞ひになる、と云つた結果で、折角のお稽古もとうとううまく行かなかつたと云ふことであります。

あとでお母様から此の次第を聞かせて頂きました、私はすぐ申しあげました。『それは無理です。同じにらめつこをするにもゲームや遊びの形式でいくらでもやれます。そして五分でも十分でも愉快に落つかせる事が出来ませう。例へば達摩さん遊びもその一つです』（達摩さんくゝにらめつこしましよ、笑へばぬかす一、二、三、と歌つて後沈黙のまゝにらみ合ひ、先に笑つたり姿勢をくづしたりした者が負けとなる遊

戯)と其の遊び方をお教へいたしました。

又單に「黙りっこ」丈けでも愉快な親子のゲームとなるではありませんか。要するに四角張つて、窮窟な思ひをさせて躑けることは最も下手な方法で、それよりは遊びやゲームを活用して楽しく愉快に、且つ不知不識のうちに缺點が矯められて行くやうにすることが賢明な方法であります。

(二) 落つかぬ子の指導法

多血質の子供の第一の特徴は、少しも落着きが無い點であることは前講で申述べましたが、その落着きの無い子供を好轉させる要領は(A)まづ靜かに熟慮するお稽古をさせ、次に(B)注意を集中するやうに指導し、猶ほ(C)忍耐力の養成や、(D)自己統制の訓練をすることが主要點であることをも附言して置きました。

けれども一項目づゝ別々に取扱ふことは實際上出来るものでなく、全體を総合的に

取扱つて行く事が賢明であり、又自然であつて、遊戯の活用は期せずして全體を綜合して同時に取扱ふことになりますから益々好都合であります。されば遊びやゲームに依つて指導する實際的な方法を主として以下申述べることにならう。

(イ) 輪投げ遊び これは實に適當な遊びであります、まづ落着いて、それからよく距離に注意して、更に投げる手の力加減を考慮して、輕卒に放らぬやう心をも身をも統制して、幾度も繰返して後上達してゆく遊びで、如何に飽き易い多血質の子供でも何時か興味に引込まれて熱中せざるを得ないのであります。

輪投げと同じ種類の遊びで、もつと簡單に出来る遊びは「おはじき放り」でありまして、庭の一隅に小さき穴を掘り約四五尺の處から赤白五個づゝの「おはじき」を放り込むのであります。この遊びはお父様がお役所から歸宅されて後、二十分間丈け子供と共に遊んで下さればよいわけで、お父様は子供のやり方に深く注意し、意識的に(注意し考慮し計畫して)實行するやうに暗示し、又明示されるとよいのであります。

す。

(ロ) 點取り太陽 これは一點から十點まで、十個の玉を一つづゝ入れるやうになつてゐる玩具で、落とし穴が幾つかある爲めに中々思ふやうに目的の場所に玉をやり難いのであります。中心に十點を取り得る太陽があつて、それから月や星やがあちこちに散在して各自點數が定められてゐるのでありますが、地圖を應用してあるものも有るなど、内部の繪は幾種類も御座います。

この玩具は落着いて、息をころして靜かに玉を送り出すと巧みに目的地に達せしむる事が出来るもので、注意の集中、忍耐、微動だに許されぬ絶對的な落着き、經驗に經驗を重ねるとに依つて上達する……と云ふ最もよき條件を具備してゐる玩具であります。そして家族中相互に競争する事に依つて一層興味を増し加へるもので、子供たちも飽きる事無く遊びつゞけるのであります。

(ハ) ビーズ繋ぎ 多血質で落着かない女の子に、これ程有益な遊びは中々見當りません。あの美しいビーズの玉は女の子の心を引く驚くべき力があります。ですからどんなに落着かない子でも之を繋がせると喜んで繋ぎます。

細い穴を一粒々々通してゆくには随分注意と忍耐とが入ります。又どうしても落つかねばなりません。又色の配合などかなり思慮を要します。斯うした良い條件が備つてゐる此の遊びは必ず落つきの無い子供を矯正せずには置きません。

(ニ) 劍玉 たつた十五錢の玩具で、これ程尊いものはありませんのに、誰でも氣付かずにお出でです。劍玉は糸に釣り下つてゐる玉を全く靜止させてから撥上げねば、うまく劍先には刺さりません。それから撥上げる手ごゝろが大切であります。落つて、注意して、微妙な手心を十分に計つてからでなければ成功せぬことが、自然に遣ふ者を落つかせます。

(ホ) フレーベルの恩物 これは正則に指導さへすれば注意、忍耐、思考、創案、と多くの良き習慣が養はれます。そして論理的心理的な根據に立つてゐるのが世界的

權威となつてゐるわけであります。少しくお母様が御勉強なすつて御利用なさると好いと思ひます。

(へ) 名指し遊び これは夕食後などにお父様が指揮者になつてなさると面白い遊びであります。指揮者が自分のお鼻を指しながら、「鼻々々々々……」と云つてゐるうちに急に「目」とか「耳」とか他の名を申します。すると相手は皆「鼻々々々々……」と真似をしてゐて、目とか耳とか他の名前が呼ばれた時に誤らずに指を其處へ持つて行くのです。此の際指揮者はわざと相手を誤らせるやうに「耳」と云つても其處へは指を持つて行かすに却て違つた場所を指します。……相手は指揮者に誘惑されぬやうに注意する所に此の遊びの価値があります。又心を落着けてゐないと他の名を聞き取る事が出来ません。

(ト) その他の色々 以下内容の説明を省いて單に良い遊びの名前丈けを御紹介致しませう。「お手玉」「繪さがし」「組み木」「手技の一切」「時計隠し(懐中時計を机の何處かに置き、上を布で被ふて見えぬやうにし音で判断させる遊び)」「記憶試験(風呂敷に五つ品位の物を入れ、一つづつ手早く出して見せて又隠し、何々であつたかを言はせる遊び)……その他ゲームも澤山ありますが他日改めて申し上げます。

(三) 永續させぬ子の指導法

多血質の子供の特徴は落着きの無い事と、今一つは永續きのせぬ事であります。されば第二の指導目標は永續きのする習慣を養ふ事であればなりません。……然らば永續きのする習慣養成要領は如何なる點でありませうか。即ち私は前章に於て(A) 忍耐力の養成、(B) 意志の鍛錬、(C) 注意力の練磨、(D) 物を作製する興味を興ふる事、(E) 規律ある課業を通して漸次に仕上ぐる仕事を授くる事、等の諸項を擧げて置きました。

さて之等の諸要領を含む良い遊び方や、玩具がありますならば之れ又幸甚の至りで

はありませんか。……………以下家庭で容易く實際に出来るものを幾つか御紹介致します。

(イ) ハンケチの縁かざり 仕始めたら最後までやらねば何にもならぬやうな仕事が一番よいのであります。即ちハンケチの縁かざりをさせる事などは最好のものと言ふべきであります。

多血質の子供は必ず、飽き易くて、途中で止めて仕舞ひたくなります。その時母親は巧みに奨励したり、慰めたりして遂に最後まで徹底させねばなりません。愈々完成したら心から喜んで賞めておやりなさい。それは完成の歡喜をしみくくと味はしむる爲めであります。

縁の幅を揃へるには注意が入ります。少しづつ仕上げて行くには忍耐が入ります。一つの方針に従つて一步步進む事は意志の鍛錬となり、規則に従ふお稽古にもなります。……………賢明なお母様は彼と共に自らも仕事を勵みつゝ、その傍で懇切に彼を指

導なさるであります。

(ロ) お池造り 幾日かを費して順次に仕上げる事を條件としてお池造りをする事は良い方法であります。小さなお池で結構です。お庭の隅でも何處でもかまひません。……………多血質の子供は氣短かですから、今日造つて明日にも金魚を入れたくて仕方がありません。人夫を雇へばそんな調子にでも完成するかも知れませんが、それは教育的ではありません。

第一日地面掘り、第二日土の取除け、第三日大體の形造り、第四日セメント下塗り、第五日セメント仕上げ、第六日より第八日まで乾かし方、第九日水汲入れ、第十日灰汁出し(そのまゝ)、第十一日水替へ、第十二日灰汁出し、第十三日同様、第十四日水替と金魚入れ、と云ふ調子に順序を追ふて漸次に完成することが必要であります。……………即ちお池を造る事が目的ではなく、意志の鍛錬と構成心の養成が主眼であります。

(ハ) 凧揚げと羽子突き 男の子の凧揚げ、女の子の羽子突きなどは熟練を要するもので、意志を練り、注意力を養ふに良い遊びであります。たゞこれは習慣上お正月丈けの遊びといたしますが、一年中何時でも遊んで良い筈でむしろ奨励すべきだと思います。

(ニ) 縫取り及び刺繡 幼児には縫取り、少し年上の子には刺繡などをさせる事は、構成の喜びを味はせ、意志を練り、注意を養ひ、順を追ふてゆくと云ふ事に依つて條件に服従する道を教へる等の効果があります。そして最後に物を完成すると云ふ徹底力を養ふ點が永續きのせぬ子によい指導であります。

(ホ) 粘土細工 粘土の練りあげから、創作から、あと片づけから、焼き上げに至るまで子供達にやらせる事が良い方法であります。これは中々趣味のある遊びで、親も一緒になつてすると子供も張合ひがあつてよいでせう。教育的な効果は皆大同小異であります。

(ヘ) その他の色々 「編物」「組立家屋」「縄飛び」「自然物繋ぎ」「お手玉つくりとお手玉遊び」「お人形つくり」など構成的のものが良好であります。ビーズ繋ぎと効果は同様であります。

五、神経質の子供の育て方

(一) 神経質の原因

子供が神経質になるのは先天的か後天的かと問はれる事がよくありますが、主たる原因は先天的でありませう。即ち遺傳的な方面が大部分でありませう。無論後天的にも(環境の刺戟が強過ぎる爲めに)神経質になることが中々多いのでありますが、然しそれすらも先天的素質が無ければ、そんなに容易く神経質になるものではありません。

幼稚園の子供などに就て観察いたしますと、神経質の子供は殆んど全部、その親が神経質であります。ですから遺傳的素質が如何に神経質兒童を生ずる主要原因であるかゞ分ります。然し、如何に神経質的傾向を持つて生れても、幼少時から両親の躰け又は環境が幸ひにして兒童の神経系に多くの刺戟を與へないで、却て良き事情のもとに置いたならば、その神経質的特徴は一生顯著に現はれず済むのであります。

ところがそれを神経質者として目立つやうに作り上げて行くには矢張り遺傳的素質の外に、なほ外部的に神経質症状を誘發するやうな刺戟が存在せねばならぬ筈で、前の遺傳的素質を内的原因と稱し、後の發生に力を爲した刺戟を外的原因と稱するのであります。

(二) 神経質の子供の特徴

(A) 感覺異常 神経質者は腦に異常があるわけでは無く、神経系統の刺戟反應が

過敏なのでありまして、少しばかりの刺戟に對しても激烈な感動を起し易いのであります。別に智力が劣つて居るのではなく却て通常よりも優秀なものが多い位で、天才的な者も多くは此の中に加はつてゐるのであります。

けれども神経過敏で、いつも尖々した氣持を持つてゐて丸で腫物にでも觸るやうな有様で、従つて疲れ易く、又興奮し易くどうしてもその状態が異常であります。幼稚園などでも打られたとか、突かれたとか云ふのでは無く、一寸押された位でもよく泣き叫ぶ子供がおりますが、それは大抵神経質の子供で、その反應時間(泣き叫ぶ間)も普通兒よりも永く續いて治まり難う御座います。

(B) 執拗な感情發動 普通の子供は喧嘩をしても直ぐ仲好くなつて、何時までも根に持つやうな事はありませんが、神経質の子供は時を経てもなほその感情が失せないで、仲々執拗であります。ですから對人關係が圓滿でなく好惡の情が著しくて困ります。又對人の問題ばかりでなく食物に對しても同様であり、又着物などにも好き嫌

ひが多くて親困らせをする事が多いのであります。……一言にして云へば自我心が強くて協同的なことが下手であります。

(C) 恐怖が著しい 神経質の子供は普通の子供よりも恐怖心が著しく、暗い所、動物、高い所、狭い部屋、などをひどく恐れ、傍に親がついてゐても尙ほこれを恐れる如き有様であります。つまり心配性取越苦勞性に臆病を加へたもので、その精神が萎縮して仕舞つてゐるのであります。

(D) 感情の倒錯 神経質の子供は時々感情の倒錯を見ることがあります。普通の子供ならば、他の人が喜んで遊んでゐる時は自分もその中に交つて喜んで仲間遊びをするのでありますが、神経質の子供は獨りつまらなさうな顔をして仲間の外にゐることが有がちであります。それから又今度は仲間やその外の人達がみんな悲しんでゐる場合に、一人ケロリとして平気で遊んでゐる事もよくあります。

以上は主として感情作用の上にはあらはれた症状を申し上げましたが、次に意志作用の

上にはあらはれる點をも少しく申述べて見ませう。

(A) 疲勞しやすいこと 初めは全力をあげてその事に當りますが、すぐ疲勞して中止するやうになるのが神経質の子供の特徴であります。而かもそれが實際に疲れたと云ふのでは無く、倦怠を覺えることが甚しい爲めで、結局意志薄弱と云ふことが原因なのであります。こんな子供は段々年が進んで入學試験などを受ける場合に、試験の前日までは元氣よく勉強し、且つ自信をさへ持つてゐたのに、當日となり愈々試験場に臨む段になつてから氣挫け、倦怠を感じて、薩張り出來ないと云ふ事になるのがよくあります。

(B) 睡眠の障碍 寝つきが悪い事、ねぼけることなどは神経質の子供の特質であります。一般に就眠後一時間から三時間位が一番深く眠る時であります。神経質の子供はその度が浅く夜明け前になつてやつと深い眠りにおちる爲め寢坊をしたり、又起き上がる時にむづかつたり泣いたり致します。

(C) 無精な動作 神経質の子供の動作は少しも活潑ではありません。關節でも筋肉でも思つきり大膽に表現しないで、その動作がいつも萎縮してゐます。確信を以て大膽に思ひつきり表現しないのは理智に缺けてゐる爲めでは無く、意志が弱い爲めに自己統制が出来ないからであります。頭ではかり批判して少しも體を動かすことをしない、即ち無精な處が神経質の子供の特徴であります。

なほこの外に色々な特質がありますが、感情作用にも意志作用にもあまり深い關係の無いもので、その著しいものを上げれば次のやうな事柄であります。

(A) 爪をかむとか、鼻孔をほじくるとか、顔をしかめるとか顔面の筋肉を不隨意的にピク／＼動かすとか、色々な習癖を持つてゐます。

(B) 癩が強くと、よく痙攣を起したり。甚しい時には人事不省に陥ることさへあります。

(C) 好き嫌ひがひどい爲めに、嫌ひな物を食べると腹痛をおこすことすらあります。

す。

(D) 些細のことに動悸を感じたり、嘔氣を催したり。汽車や汽船に酔ひ易いのもその一つであります。

(E) 發音異常や、緊張力の異常や、それから遺尿を伴ふことも特質中に擧げねばなりません。

(三) 神経質の子供の育て方

(A) 強い刺戟を與へるな 神経質の子供は前に述べたやうに神経過敏であることが一番著しい點でありますから、強い刺戟を與へぬやうにすることが最も大切なことであります。都會生活のやうにウカ／＼往來へも出られぬやうな有様では、兒童も神経質にならざるを得ないのでありますが、その上に演劇だの活動寫真だの、音樂會だの、お祭だのと強い刺戟ばかり與へては、神経質を通り越して、氣狂ひにでもならな

くては濟まないことになるであります。

今日の都會兒童の三分の一は神経質症状が認められると云ふ事ではありますが、如何に都會の生活が兒童を傷つくるものであるかを知るに連れ『矢張り野に置け蓮華草』で人々よ野に歸れ、土に親しめと叫ばざるを得なくなります。

然るに思慮もなく幼兒を都市の雑沓中に連れ出し、母の虚榮と慾望とを満足せしむる爲めの道づれとして、あたらし尊き幼兒等を傷けてゐることは實に惡むべきであります。……わけても活動寫真などの如き俗惡な世界に幼兒を連れ行く如きは絶対に禁止せねばならぬ點であります。

(B) 勤勞の獎勵 神経質の子供はどうしても屋内でする小さな遊びに興味を持ちたがります。折紙をしたり、繪本を見たり、まゝ事をしたり、本を讀んだり、と云ふ風で、大きな筋肉勞働を厭ひます。ですから出来る丈け屋外に連れ出し、均齊運動をやらせ清い空氣を呼吸させ、日光に浴させる事が必要であります。

神経質の子供に智能の事を配慮するよりはむしろ健康の問題を一番重要視せねばなりません。智能は却て優秀である場合が多いのですが、人間が一番役に立たねばならぬ三十歳から後になると、身體の方が續ききらずに癡人となつて仕舞ふ事が多いのであります。

池掘り、ブランコ、樹登り、三輪車、庭園の世話、散歩などは最も良いもので、更に元氣のよい仲間を與へて駈つこをさせる事なども神経質兒童には是非獎勵すべき事であります。そして一言にして云へば均齊運動の獎勵と云ふ事になり勤勞獎勵と云ふ事にもなります。……斯うして彼を「無精」から救ふ事が出来るであります。

(C) 嚴格に過ぎるな 神経質の子供の親は前にも云つた様に多くは親からが神経質である爲めに、神経過敏に干渉したり小言を言つたり、氣六つかしく子供の自由を束縛することが多い爲めに益々子供の神経が昂ぶつて過敏症状を強めて行く事が多いのであります。

僻み、羨やみ、或は拗ね、怒り、羞かみ、人を恐れ、親の目色を偷み、人の顔色を讀む如き神経質の不良な性格は幼児時代に餘り口やかましく親が干渉し過ぎた爲めに起るので、親の神経質の反映であります。

もし両親が愛と理解とを以て少しも無理強いをせず育てさへすれば、子供は本来の性情としておつとりと生ひ立ち行くもので例へて神経質的素質があつても、それが表はれずに済む筈であります。……つまり親があまり子供を構ひ過ぎる事が悪いのでありまして。子供の意志を弱くし、依頼心を高め、發動的精神を枯らし、優秀な智能さへも進歩しなくなつて低能に變ずる事すらもあるのであります。

(D) 團體生活の訓練 神経質の子供は陰鬱で、感情の倒錯があつたり、人に對して好悪が強過ぎたりする爲めに仲間遊びをする事が、どうしても不得手になります。……ですから出来る丈け幼い時から團體生活に馴らして行かぬと、年の進むに従つて益々その傾向が甚大になり、遂には非社交的な拗ね者となつて一生社會の活舞臺に

出られぬ人となつて仕舞ひます。

此の點から申しますと幼稚園に入れる事は最も良い方法であります。然し幼稚園では神経質の子供には生理的にも精神的にも重荷をかけぬやうにする事、即ち過勞に陥らせぬやうにする事が大切で、取扱ひに注意を要します。

殊に注意すべきは同じ年頃の子供と仲間遊びをさせる事で、餘り年齢が違ひすぎると相手が強すぎて却つて過勞になつて仕舞ひます。又遊び方に變化があり、活動的であり、又興味もなければなりません故、經驗ある大人が指導してゐる事も必要條件となるのであります。

(E) 食物と睡眠 刺戟性の食物は避けねばなりません。それで無い食物ならば出来る丈け何でも喜んで食べる習慣を付ねばなりません。好嫌ひのある事は人格的にも偏屈な者になるばかりでなく智能の發達も非常に制限して仕舞ひます。調味の仕方も又砂糖を入れぬやうにして、物それ自身の有する味を玩味させるやう習慣づけねば

なりません。

次は睡眠を十分に取らせる事ではありますが、就床の際必ず母親が附添ひ、平和な暗示をかける事と『グッスリ眠られますよ』と眞實に明示する事が必要であります。……又子供の顔色をよく眺め「今日は好い子でしたか？」と反省させ、もし何か心に咎める事があるやうならば悔改めと赦しとをよく教へて安心して眠り得るやう導かねばなりません。又周囲を騒がしくせぬ事と、電燈を消して眠らせる習慣をつけねばなりません。又お風呂に入れる事も就床の前がよいと思ひます。

(F)その他の色々 間食の嚴禁、冷水摩擦、薄着實行、などは最も大切なことでもあります。精しい説明は省く事に致しませう。ともかくも意志を練り、身體を鍛錬する事に全力を注ぎ更に團體生活に興味をもつて行くやう躡けることが神経質兒童の教養要領であります。

六、膽汁質の子供の育て方

(一) 膽汁質の子供の特徴

膽汁質の子供は「熱性」と稱へられてゐますが、これは物事に感動し易いからで、神経質の子供のやうに優柔不斷でなく、又多血質の子供のやうに軽々しく飛び上がる如き態度もなく、非常な緊張力を持つて熱心に事を爲す處に特徴があります。

又精神の働きは速かで強く、何事も自發的にぐんぐんやり貫いて行く美點を持つてゐます爲め智能の發達も著しく、決して人後に落ちないと云ふ長所があり、常に人の魁に立つべき素質を多分に持つて居ります。

その他膽汁質の子供の美點を申しますと、意志が強く、剛氣で、實行力に富んで、これを良く教養すると物事に熱心で、勇敢で、忍耐力が強くて、何事をも遂行して

行くと云ふ頼母しい人物となるのであります。

以上のやうに胆汁質の子供は願つても得られないやうな數々の長所を持合せて居りますが、然し長所は又短所となつて現はれ易いもので、教養法を誤ると、今度は傲慢で、強情で、無謀で、少しも人に思ひやりをかけぬ我儘一杯の人となつて仕舞ふのであります。

全體として幼少の頃は美點よりも缺點の方面が却て著しく現はれ易いもので、思ひやりが無く、強情で我儘な子供が胆汁質の子供の特徴と云はれてゐる位であります。が、それは缺點のみを殊更らに摘出した評論で、矢張りその奥には數々の美點や長所が存在してゐることを忘れないで、愛と理解とを以て教養訓練せねばなりません。

胆汁質の子供は家庭でも、幼稚園でも、小學校でもよく持て餘まし者にされる事が多いのであります。之は亂暴で、不従順で、我意が強くて、屢々平和を亂し、少しも教養者の思ふ通りにならぬからであります。けれども教養者はむしろそれ丈け深き同

情と理解とをもち、一方には大なる期待をかけつゝ懇切に指導せねばならぬのであります。まして、消極的に禁止し、叱責してばかりゐてはならないのであります。

幼稚園の生活に於て胆汁質の子供はどんな特徴を表はすかと申しますと、まづ第一に「や・さ・し・み」が缺けて居ります。虫を殺す、蛙を踏み潰す、物を壊す、弱い者いぢめをすると云ふやうな荒つばい行動のある事が特徴で、何でもかでも強奪して少しも人を顧みないやうな行爲が多いのであります。

第二には何事も表現が亂暴で、リズムにも乗らず、規定に服従することもしないやうな傾向があります。例へば遊戯をやらせても従順に、正則にキッチンキッチンとせず勝手氣儘に、甚しきは滅茶苦茶にするやうな事が多いのであります。又折紙などを致しますと指の使ひ方が荒い爲めにキッチンと合はせる處も食ひ違つて仕舞ふやうな事に成り勝ちで、萬事そのやり方が亂暴なのであります。更らに又或る一つの線の上を歩行させたり、リズムに合わせて歩調をとらせたり致しますと、身體の統制力が乏しく脱線

したり、リズムを無視したりすることが屢々なのであります。

第三は強情で我意を通す事が多く、協同して遊ぶことが下手であります。ですから何時も自分の都合のよい事を主張し、人を押しのけ幸福を独占しやうとする爲め人から嫌はるゝか、又は人を征服して大将の位置に立つて人々を統率いたします。

以上は稍々缺點のみを挙げ過ぎた傾きがありますが、長所としては物事に熱心で、純真に事を爲す點で、更に發動的で勇敢な態度のある點が優れてゐるのであります。前述の如く膽汁質の子供は「強情な點」と「思ひやりの無い點」とを少しく矯正して、一方大にその長所を伸ばさせ、將來天晴れな首領となるやう指導することが大切なのであります。むしろ膽汁質の子供は末頼母しいのであります。

(二) 強情者の導き方

(A) 柔順の徳を養へ……強情者を良く導くには先づ柔順の徳を養ふことが大切

であります。強情な子供はいつも我意のみ貫かうとする爲めに親にも先生にも不柔順であります。そして其の傾向は獨自性が生れ出る頃から表はれ初めます。

教養者は此の時から注意して指導せねばなりません。その要領の第一は教養者(母及び先生)の權威を保全することでありませぬ。即ち教養者はその言行が常に曖昧であつてはなりません。然りを然りとし、否を否とし、其の態度常に明白でなくてはなりません。

又教養者は己が感情で事を左右せず公平でなくてはなりません。一度命令した事は必ず之を徹底しなければなりません。到底徹底し得られぬ事は最初から命令しない方がよいのであります。なほ又一度禁止した事を中途に於て意味なく許してはなりません。……即ち、すべての事を徹底して行く時子女は教養者を信頼して従順に服従するのであります。

第二には協同生活及び群衆生活の中に加入させて、その規約に服従させるやうに

し、遊戯なども一つの條件に依らねば決して仲間入りの出来ぬやうなものに加入させる事が必要なのであります。……此の意味に於て幼稚園などの團體生活は團體そのもの、力に依つて一個人の我儘を矯める事となり、律動遊戯の如きは最もよくその目的を達するのであります。

又家庭に於ても行軍將棋、ビンボン、編物、組立て玩具等の如き規則に依つて用ふるものを與へて、その條件を守る事を奨励することが最も良き方法であります。……兎も角も團體遊びに馴れ、條件に従つて遊ぶことに上手になれば、自己の我慾を貫かうとする習慣は自然に消え、對手の中に己を生かして行く力が生れて柔順な性情が出来るのであります。

(B) 自制心を養へ……強情な子供は次第に意志が弱くなり自制心も消え失せて、遂には自己統制の出来ない我儘氣儘な人物になつて仕舞ひます。又強情と云ふ事は意地が強い處から起るのでありますが、遂には無謀になり、自分の意地に自分が引

づられるやうな矛盾を繰り返し、終ひには自己統制の力が無くなつて所謂片意地者になつて仕舞ふのであります。

されば自制心を養ひ、忍耐力を養ふことが最も良き矯正法であります。これには永續的な遊び即ち「こんくらべ」「繩飛び」「お手玉」「吹返し」「知慧の輪」などを與へて克己力を養ふことが良く、更に練習を要する遊び即ち、「劍玉」「輪投げ」などを奨励することがよいのであります。

猶ほ又教養者として斯かる子供に接する心得を申し上げますならば、常に彼等の名譽心に訴へる事を要領とし、自制力を持てる子供を「強き人」と呼んで賞讃し、強情と我儘とを表はす人を「弱き人」と呼んで冷笑する如き態度を見せ、強くなれ／＼偉くなれ／＼、と繰返し繰返し教へることがよいのであります。

強情者は一面から見ると敗好かずでありますから、人に勝れる者とせらるゝ事が一番嬉しいのであります。故に柔順の意味に於て、自己統制の意味に於て、更に忍耐力

の強き者たる意味に於て、常に人に勝れる人よと賞讃し、且つそれに相應した寓話を語り聞かせて暗示的に奨励することが此の種の子供には驚くべき程の効果があるのであります。

(三) 思ひやり無き子供の導き方

(A) やさしみの心を育てよ……これは教養者自身にまづやさしみの心が充滿して居るか居らぬか重要な問題であります。感情教育は殆んどその全部が感化に依るものでありまして、單なる説明や訓話で出来るものではありません。親自身がやさしみの心に滿つる時に子供は自然にやさしみの心を持ち得るのであります。

然しながら親が豊富に、又四六時中、子供へ愛と同情とを注ぎかける事が子供の心にやさしみの心を養ひ育てるものではありません。むしろそれは却て彼を利己的にするのみであります。さうでは無く、親自身の生活が愛と同情の充滿した生活であれと云

ふ意味であります。

天地萬物に對し、友に對し、女中に對し、家畜に對して深き思ひやりと祝福心とを
持った親の生活態度そのものが、子供の心をやさしく感化するのであります。それは
恰も鏡の前に立つ時、己が姿が明らかに現はれる如く、子供の心に己が心がそのまゝ
反映するのであります。

次に子女の心にやさしみを育てる要件は、子女の心に宿るいとも小さきやさしみの
心を受けてやることとあります。由來人間の性情と云ふものは、他から受けるばかり
で育つものではありません。却て彼自身の内に在る小さき心を使用させることが大切
であります。さればやさしみの教養と云ふ事も、子供心に小さく芽生へてゐるやさし
みを親が受入れてやつて、それを喜び感謝することが秘訣であります。

子供心が荒されて次第にやさしみを失ふ主なる原因は、そのやさしみが受入れられ
ず、少しも相手に喜ばれないからであります。また子供心の動機に注意せず、その表

はし方の不完全なることを評論して、かれこれ非難する如きは大きな誤りでありませぬ。名も知れぬ野花の一輪を「お土産」として貰つた時でも親は尊き贈物としてこれを受けねばなりません。

猶ほ次に大切な事は、親兄弟親戚朋友にやさしき思ひやりをかけるやう指導するのみでなく、天地萬物の一切に愛と好意とを向けて行くやう導くべきことであります。かくて子供の心は遂に神の心と合致するのであります。

同時に又他よりの好意を快く受けることをも教養せねばなりません。これが深く養はるゝ時、神の恩、世の恩、君主の恩、親の恩に報ひる志が生じ、奉仕より犠牲の生活へと直進せねばやまなくなるのであります。

(B) 注意深き習慣を養へ……思ひやりの無き子供は、不注意であつたり無頓着であつたりすることが多いのであります。故に物事に對して能く氣を付け、周密な注意を拂ふ習慣を養ふことに依つて彼を缺點から救ふことが出来るのであります。

小鳥の世話をさせ、庭に花壇を造らせ、剪り紙貼り紙などの遊びを奨励し、美情に加へて注意を養ふやう導くことは最も良き方法であります。即ち美情を養へば自然に細かい注意と、思ひやりが湧き起つて来るわけで、對手に愛着心が強くなればなる程細心の注意を拂つて之を保護するやうになるのであります。

又よく事物を観察する習慣を養へば、観察の對手に對して深く注意し、且つ對手を深く同情するやうになるわけで、まづ観察の手引きを爲すために、「虫眼鏡」「雙眼鏡」「のぞき」「原色幻燈」などを與へることは良き方法であります。これは又智識の開發にも大なる効果があるわけでありまして、一舉兩得となるのであります。之等の理科學的玩具は大切に取扱はせ、その出し入れに注意させることが必要で、常にその始末をさせる事に依つて一層注意と思ひやりを養ふことが出来るのであります。

(C) 想像推理の力を養へ……想像力も推理力も、既知の事實から未知の世界へ分け入つて行く能力であります換言すれば自己を他の世界に生かし、そこに新天新地

を創造する活動なのであります。

故に我儘や、利己主義に立籠つて満足してゐる筈はありません。小我を捨て、大我に生き、天地の韻律に共鳴せずば止まなくなるのであります。されば此の大きな力を養ふべき物として私は何を推薦すべきでありますか。私は之をフレーベルの恩物であると申上げて憚りません。

七、粘液質の子供の育て方

(一) 粘液質の子供の特徴

粘液質の子供は「冷性」でありまして、石橋を叩いて渡るやうな堅實さを持つて居ります。けれども少しも感激性がなく、物事に積極的に關心しないのが缺點であります。ですから鈍く遅く不活潑で、幼少の時にはその能力が現はれない爲めに低能の如

くに見誤まれる事が多いのであります。

精神の働きは遅くて弱く、思慮、舉動ともに緩慢であつて、物事に動かされ難い特徴を持つてゐますが、進歩には暇がたっぷりあります。恰度石垣を築いて行くやうな調子に、一つ／＼積み上げて行く處に彼の生くべき道があるのです。

粘液質の子供は教育のしやうに依つては、誠實で沈着な人となるのであります。放任すると「冷淡で不活潑」な人となつて役に立たぬ人物が出来上つて仕舞ひます。又感じが鈍く、協同心が無く、社會生活に於て劣敗する心配がありますが、寛大で忍耐力に富んでゐる事と、忠實に努力してゆく事とで、最後の勝利を得ると云ふ頼母しい所もあるのであります。

要するに粘液質の子供はその缺點として矯正すべき點は「物事に感じない點」であり、長所として大に助長すべき點は「寛大で忍耐力に富む點」であります。

私は粘液質的傾向を多分に持つてゐる尋常一年の男の子に就て觀察いたしました

が、イロハ四十八文字のカードを順序不同に自分の前に並べ、その中からハタとかヤマとかイスとかの名詞を自由に澤山拾ひ出して別の場所に並べるのがその時のお仕事でありました。

ところが彼は、他の子供たちが五つも六つも名詞を拾ひ出して並べてゐる所まで仕事を進めてゐるに拘らず、彼はまだ最初のカード整理に熱中してゐるのです。見れば水も漏らさぬやうな堅實さで、キチンと方形紙を見るかの如くに並べてゐるではありませんか!?……成る程これでは暇がかゝる筈だと首肯されました。

然し彼は如何にも忠實な態度で、遅ればせながら其のカードを並べ終り、それから静かに數々の名詞に並べ變へて行くのでした。恰度そのお隣には中々手早くカードを整理し得た子供がゐましたが、見ればカードが裏返しになつてゐたり。文字が逆轉して並べられてゐたり、滅茶苦茶な状態ではありますが、それでも御本人は平氣でありました。

不注意で、そつつかしくて、好い加減な仕事ぶりを發揮する子供より、鈍く遅く、餘りに用心深い弱點はあつても、堅實で正確で、誤りの無い仕事ぶりをする子供が何程尊いか分らないと私は感じました。

粘液質の子供は斯う云つた點に強味を持つて居ります。要するに粘液質の子供は反復練習して上達すべき道筋を取らせる事が一番大切で、それが爲めには意志を練り、興味を持続させることが最も必要であります。

(二) 粘液質の子供の導き方

粘液質の子供は孜々として努力することに依つて最後の優越權を占めて參ります。ですから途中で失望したり、氣抜けがしたり、飽きが來たりせぬやうに指導することが大切で、それが爲めには「自信」を與へ「興味」を感じさせ「意志」を練つて挫折せぬやうに教養すべきであります。

幼稚園時代では多血質の子供や胆汁質の子供に優越権を奪はるゝことが多い爲め、いつも粘液質の子供は悪い割り前ばかり貰つてゐる傾向があります。駆けつこにしても鬼ごとしにしても、子供の遊びの大部分は速度に於て勝敗が決せられ優劣が定めらる事が中々多いのです。すべて競技に属するものはさうですし、又お稽古事でも速度が重要な條件となつて居ります。

ですから粘液質の子供は、何事も遅れてばかりゐる爲めに最も大切な「自信」を失つて仕舞つて、自らその心が萎縮して仕舞ひます。實際駆けつこをさせて見ても、その舉動が緩慢で、スタートを切る時から既に大變な損をして居ります。それから又實際の駆け方も遅いのであります。こんなわけで、自分はいつても勝てぬもの、ときめ込んで自信を失つて仕舞ふのです。即ち勝算が無いのです。

そこで私は粘液質の子供を見ると、故意に小さくて彼よりも劣つてゐる者を見出して競争させます。すると當然勝利を得る事になります。つまりわざ／＼勝たせるやう

に仕向けるのであります。そして『それ御覽なさい。あなたが一生懸命に駆けたので勝てました。いつも斯う云ふ風に本氣になると勝てますよ。あなたは偉いですねえ』と奨励いたします。……これ即ち彼が失つてゐる自信力を復活させてやる爲めであり

ます。

斯う云ふ風に粘液質の子供には自信力を與へることが大切なのです。……神経質の子供は競技などには最初から出たがりませんし、又敗けると甚しくくやしがりま

つまり負けすかすの爲めに勝算が無いと出たがりないのであります。

けれども粘液質の子供は、敗けてもさうくやしがりもせず、冷靜に構へて居ります。ですから敗けても敗けても興味さへあれば出ることを厭ひません。茲に又彼を生かすべき途があるのです。即ちそれは「興味」を與へることでありま

す。

興味さへあれば何でも繼續して行かれるし、又心も籠つて參ります。従つて感激も湧き、愛着心も起り、相手に無關心でゐられなくなります。斯うして冷靜なる粘液質

の子供が積極的に發動し出さずにはゐられなくなるのです。……然らば興味を起させるにはどうしたらよいでありませうか。

興味には發動的な興味と、受動的な興味と二つあります。發動的と云ふのは、その人自身に好奇心が燃えてゐて、對手が何であらうとも、珍らしく思ひ、心をとめ、積極的に關心して行くことで、受動的と云ふのは對手の方に變化があり、心を引くものがあり、不思議があつて、思はず知らずこちらが釣り込まれてゆく事を云ふのであります。

粘液質の子供はどちらかと云ふと受動的でありますから、それだけ興味を引出すものが對手とならねばなりません。換言すれば好奇心を誘發する刺戟が強くなければなりません。實例を申しますと、ビックリ箱の如き、蓋をあけるとニャーと泣きながら猫が頭を出す仕掛となつてゐますが、(神經質の子供にはあんな玩具は大禁物であります)……粘液質の子供にはあんな刺戟の強いものでも差支へないと云ふわけであり

ります。

即ち粘液質の子供は、外部からの刺戟が強い場合に關心し出すのでありますから刺戟のあるものを提供せねばなりません。……が然し強い刺戟とは申しても、子供ですからそこには程度があることは無論です。要するに粘液質の子供には『興味ある環境』を與へることが大切であります。

そこで私は此の條件に叶つた事として「遊び方」に工夫し、且つ玩具をもそれに應じて撰擇することが大切になつて來ると思ひます、面白い遊びや玩具を提供されたら、如何に冷靜な子供でも關心し出さずに居れるものではありません。何故かなれば遊びは子供の生命なのであります。

(三) 實際的指導の色々

(A) 矢張り發動的態度をも養成せよ 粘液質の子供は受動的だから……など、思

ひ濟ましてはなりません。矢張り發動的な態度を幼い時から養成すると充分發動的になつて參ります。

實際の現状から申しますと、今日の親たちは、餘りに子女の發動的態度を訓練することを忘れてゐます。若しかすると出来ないのかも知れません。何しろ親自身に發動的な態度が乏しいのですから！『林檎の實が枝から落ちた。フン熟し過ぎたんだ』と如何にも簡単に片づけて問題にしないのが親たちの態度ではありますまいか！？

ところが子供に取つてはそれが大きな不思議であります。そして「何故か」と何處までも落ちた原因を追究して參ります。少年ニュートンは斯うした探究から遂に「引力の法則」を發見いたしました。

親たちは知るべき程をも知らないのに、その心を堅く閉ざして何事にも無關心ですまし切つてゐます。少しも驚かず、珍らしがらず、不思議がらず、萬事自稱免許で卒業して仕舞つてゐます。最早何等の新鮮さもなく、生命の躍動をも見ず、その心は全

く錆付いて光を見ることが出来ません。

こんな有様で何うして潑刺たる生命に躍動してゐる子供に善き刺戟を與へることが出来ませうか。吸取紙のやうに觸れたらそのまゝではゐられぬ子供心に、どうして指導の位置に立つことが出来ませうか。もつともつと親自身に驚異を感じる心があり、燃ゆるやうな求知心があり、好奇心があり、事物をめづる心があり、且つ一切に共感する心があり、又一切から受くる刺戟を感受する心が無くてはなりません。

まづ親の心が干からびない事が大切であります。そこに初めて子供の心にも生々しく伸びて行く力を與へ得ます。『まあ珍らしいこと！見て御覽なさい』と呆れ顔で子供に一輪の花を、また一本の草を示す親こそ、内から好奇心に燃え立つて行く發動的な態度を子供に躡ける事が出来るのであります。

もつと呆れよ、珍しがれよ、探究せよ、關心せよ、共感せよ、驚異せよ、子供とともに、子供の前で……さらば粘液質の子供と雖も發動的にならずには居りますまい。

(B) 玩具による導き方 玩具を興へて導くことは幼児にとつて最も適切なことではありませんが、さて實際に探して見ると適切なものが中々ありません、もし好奇心を誘發する玩具でもありませんたら、それこそ最も優秀なるものと云ふべきであります。それが容易に見付かりません。理科學玩具などはまづ逸品と云ふべきであります。それからゼンマイやバネ仕掛けの物、更らに魔術箱、のぞき、虫眼鏡、原色眼鏡、なども良く、特にフレールベルの恩物なども推薦したいものゝ一つであります。

なほ構成して行く玩具がよいのでありますが、組立て電車、手工道具、手技用具の一切がそれを代表いたします。

更に實行玩具に屬するものは皆良好でありまして、凧お手玉、羽子、輪投げ、射的輪廻し、跳び繩、劍玉、獨樂、毬、風船などは即ちそれでありませんが、お手玉、跳び繩の如きは舉動を敏速にし、注意を深くする點に於て粘液質の子供に最も適當したものであります。

(C) 遊具による導き方 練習を要する遊具はすべて適當であります。三輪車、スケート、ブランコ、などは即ちそれであります。これらのものは皆自ら操縦して遊ぶうちに意志を練り物を統御する喜びを感じ、且つ發動的態度をも養ふに至るのであります。極めて適當なのであります。

なほ、木馬、シーソー、毬、輪廻し、一切のボール應用の遊びなども遊具によるものとして、數ふべきであります。

(D) 一般的な遊びに依る導き方 一般的な遊びの中には粘液質の子供を指導するに適切なものが數多ありますが、今回はその遊び方の名稱だけを御紹介して、更に稿を改めて精しく説明することに致しませう。

(イ)ハンケチ奪ひ (ロ)手打ち遊び (ハ)玉取り競争 (ニ)毬送り (ホ)タツピン
ダなどは室内で出来るものでありまして兩親がその相手となつて指導し得ることが何よりも好都合な點であります。又屋外の競技は何でも適當でありまして身體を敏速に

する事に依つて彼の缺點を矯めることになるのであります、その他精神を敏速にさせる色々な遊びがありますが、それは次の項に精しくのべることに致しませう。

八、鈍くて遅い子供の導き方

(一) 筋肉運動の指導

子供の訓練は言葉でくどくど説明するよりも、遊びを利用して、面白く楽しく實際的に導くことが一番巧みな方法であります。そこで今回は粘液質の子供、即ち鈍くて遅い子供を導くによい方法は何かをお話いたしませう。

それから茲に申添へて置きたい事は、どんなに良い方法がありましても、それを活用しなければ何にもなりませんから、是非とも活用して頂きたい事であります。わけでもお父様に御活用を御願ひしたのであります。……お役所からお歸りになつて一

休みなすつてから二十分づゝ毎日子供のお相手をして下されば、その結果はすばらしいものであります。

お母様方は此の事を大にお父様へ力説して、是非とも遊び相手になつておいたゞきなさいませ。すべて家庭内の遊び事は、殊にゲームに属するものは、お父様がお加はり下さる事に依つて緊張するものであります。わけでも粘液質の子供の指導は緊張して相對することが何よりも必要なのであります。

(A) ハンケチ奪ひ……この遊びは「天下とり」と云つて學校歸りの子供が、省線電車の中などでよく試みてゐる遊びであります。即ち腰掛けてゐる子供と、立つてゐる子供とが勝負をして、腰掛けてゐる子供の方が負けると、立つてゐる子供に席を譲らねばならぬ定めで幾人かの仲間が次々と勝負を繰返して席を奪つたり奪はれたりするのであります。

その遊び方は、腰掛けてゐる方の子供にハンケチを持たせて前に突き出させ、それ

を立つてゐる方の子供が手早く奪ひ取るのでありまして、腰掛けてゐる方の子供は手早く手をひつこめるか、又は硬く握りしめるかして、取られないやうにするのであります。お座敷では兩方とも座つてゐて結構であります。

この遊びは取るにも、取られぬやうにするにも、手早くせねばならぬのでありまして、不注意であつたり、手の動かし方が鈍かつたり致しますと、必ず負けて仕舞ひます。即ちこれは機敏なることが一番の必要條件でありまして、粘液質の鈍く遅い子供には適當な遊びであります。

これを競技の形式でいたしますと、子供は自然に緊張して、全力を注いでいたしますから、機敏に手を動かし、又注意をするどくして、いざとの場合にすぐ適宜の處置を取り、而かも敏速に事物に應接すると云ふお稽古になるのであります。

手を早く動かせとか、ソレと云ふ場合にはすぐ適當の行動に出でよとか、言葉を以て命じて、當人は叱られてゐるやうな不愉快さを感じる丈で何にもなりません、

遊びの形式で相手になつて行くと興味を感じて乗り氣になつて致しますから好いのであります。

又彼は何もお稽古をしてゐる積りも無く、而かもそれでゐて全力を注いでお稽古をしてゐるのでありますから面白いではありませんか。すべて子供の遊戯と云ふものは之即ち學習で、よく遊ぶ子供はよく學ぶ子供であります。

此の遊びをもしお父様がお相手になつて下さるとすれば、子供の速度に應じて手加減して下さることが出来ます故、初めから終りまで負け通して失望して仕舞ふと云ふ事にならず、三度に一度は勝てる所から大に張合ひを感じ、希望を持つと云ふ事になるのであります。茲に又お父様がお相手をして下さる大切な要點もあるのであります、是非お付合ひをして頂きたいのであります。

(B) 手打ち遊び……これも前のハンケチ奪ひと殆んど同様の遊びであります、その遊び方は、まづ二人が互に向合ひになつて片手を前に突き出し、掌を下に向けま

す。それから一人は下に、一人は上に重ねて用意を致します。

この場合下になつた方が發動役で、上の方は受動役になるのでありますが、下になつた發動役は敏速に掌を回轉して相手の手の甲を、こちらも手の甲でビシヤリと打つのです。上になつた受動役はビシヤリとやられぬうちに機敏に手を避けて仕舞はねばなりません。もし打つことが出来なかつたら、打つ事が出来るまで繰返します。そして當つた場合にいつも交代するのが定めであります。

この遊びも子供同志で致しますと、あまりひどく打ち過ぎます爲めに二三回繰返すともうやめて仕舞ひます。ですからお父様がお相手をして下さると、手加減をして下さることが出来ます故幾度でも繰返してやれるわけであります。

(C) お豆拾ひ競争……お茶碗に三十粒ばかりの大豆又は白豌豆を入れて與へ、一二三の號令と同時に、それを自分の前に一粒づゝスプーンですくひ出し、全部出し終つたらお茶碗を逆さに振つて一粒も無き事を證明し、それから今度は再びお茶碗の中

へスプーンで一粒づゝ掬ひ入れるのであります。

この遊びは競争者があるとあはてたり、夢中になつたりしますので面白いのであります。あまりあはてるとお豆はごろ／＼遠方へ轉がりゆく心配がありますから、相手の方には目も呉れず、落着いて手早く掬ひ入れることが大事な要領であります。斯うして注意と落着きと機敏とを養成することにもなるのであります。

お父様がお相手をなさる際は、數をお父様の方に多くするとか、時間ぎめにしてお父様の方を二十秒、子供の方を一分間など、規定することがよいのであります。

なほスプーンの代りに箸を用ふる事も良いのであります。あまり小さな子供には困難であります。然し箸を用ふることは指の筋肉を訓練することになります故、智能の發達にも効果があるわけであります。

(D) タツピング……十六分の一大の書用紙に鉛筆で縦横十文字の線を引きて四つに區劃し置き、その一劃づゝに十秒を一定時間としてコツ／＼鉛筆で黒點を打たせる

のであります。

一割づゝ「初め、やめ」と號令をかけてコツ／＼やらせるのでありますが、幾回もその回数を重ねて参りますと、段々黒點の數が増加し、あまり又長く續けてゆくと今度は數が減じて仕舞ひます。即ち練習をつめば増加し、疲労が來れば減少すると云ふわけでありまして、馴れる程疲労も感せぬやうになる道理でありますから、終ひには熟練の効果のみが生きて行くわけになりますのであります。

この遊びは家族全體で試みると面白いのでありまして大人の標準は五秒で四十五打てばよく、幼兒は十秒で五十に達すればよいのであります。

(E) 獨樂まわし……智能の發達に一番深い關係のあるものは小筋運動、即ち指の働きであります。ですから指先の練習は中々重要なものでありましてピアノとかタイプライターの如き正則な玩具が發明されたら、どんなに好いかと思ひます。けれども中々見付かりません。そこでせめても指先使用の玩具として小さな獨樂を推薦した

いと思ひます。

五個十五錢位の安價なものをフレール館に發賣してゐますが、それを求めて與へ次々に機敏に回轉させて、一番目の獨樂が停止しないうちに他のすべてを廻させることを條件としたらよいと思ひます。つまり早く全部を廻はす事と、確實に廻はす事とを練習させる事が要點であります。

(二) 精神運動の指導

前に述べました事は主として手や指の筋肉運動の方面でありましたが、もつと全身運動として考案して行く事が必要であります。例へば『拾ひ物競争』の如き『椅子取り』の如きは秀逸なるものでありますが、その他全身運動は家庭の生活中に注意して見れば澤山見出されるのであります。

そして機敏に立働くことを獎勵してさへ行けば、立派に目的を達することが出来る

のであります。……それですから全身運動の方面は茲に省略して以下少しく精神運動の指導の仕方に就て申上げる事に致しませう。

(A) 聯想遊び

(イ) 反対聯想……反対のことをすぐ思ひ出して答へさせる事が此の遊びの主眼でありまして、高いと云へば低いと答へ、大きいと云へば小さいと答へるのが正しいのであります。そして發題者が次から次と停滯なく云ひかけるやうに致しますと、子供は非常に思考作用が機敏になるのであります。

(ロ) 接近聯想……月と云つたら雲と答へ、花と云つたら蝶と答ふる類で、接近したものを發表させるのであります。

(ハ) 類似聯想……雪とお砂糖、氷とガラス等の類で、すべて似寄りのものを發表させるのであります。

(B) シリトリ

とんぼ——ぼたん(んの場合にはむに代へて)——むめ——めくら——らつば——ばんつ——つんぼう(ぼうは二字を用ひて)——ぼうし、など、下の字の頭文字として名詞をつくつて行く遊びであります。これを出来る丈け早くやらせるのであります。

(C) 見たものづくし

『このお部屋の中をよく見廻はして、此處にある物の名を皆云つて下さい。同じ物を二度云つては駄目ですよ。そしてずん／＼つゝかへないで早く云ふのですよ』……と命じて早く云はせるのであります。エーとかウーとか云つて停滯する時は早く早くとせき立てなくてはなりません。これは觀察力と注意力と發表力と判斷力とをよく養ふのであります。

(D) 思ひ出遊び

『あなたが小さい時からお仲好にしてゐた人(親しく知つてゐる人を意味します)を大人でも子供でもかまひませんから思ひ出して云つて下さい。出来る丈け早く思ひ出

して早く云つて下さるんですよ！ 私が紙にお名前を書き付けて上げませう」と云つて、お父様か、お母様が傍で書つけて下さるのです。……もし停滞したら、親の方で思ひ出してゐる人物を少し手がかりを提示して思ひ出させるやうにするのです。

この遊びは記憶力を養ひ、記憶の再現、再認を發表する力をも養ひます。又同じ方法で「小さい時から買つて頂いた玩具」に就て云はせるもよく「見て知つてゐる動物」に就て云はせるのもよろしう御座います。

(E) 判断遊び

『お家にはロースクもあればマツチもあります。それから何か急な御用の時に役に立つお電話もあります。(無論假定でかまひません) お電話もあればロースクもマツチもありますよ。いゝですか。(必ず反復するのですが、反復の時は前と反対の順序にするのです) 若し、不意と電燈が消えたら、どうしたら好いでせうか？ 考へて下さい。電燈は何處が悪くなつたのです』と發問して答へさせるのです。

この遊びは思考力と判断力とを養ふによい遊びでありまして、問題も又工夫次第で何程でも湧いて参りますから、每晚一二回づゝ試みると結構であります。

以上述べました外に『手技本位の遊び』はすべて「創作力」を養成いたします故、大に奨勵すべきであります。例へば大小二個の圓形紙を與へて、「之を使つて何でも早くお造りなさい」と申しますと、子供達はよく雪ダルマ、雛鳥などを作ります。……扱て今回述べましたやうな遊び方は粘液質の子供ばかりでなく一般の子供にも有効でありますから、何れの御家庭でも御實行下さると良いと思ひます。

昭和五年十二月廿二日印刷
昭和五年十二月卅一日發行

(定價參拾錢)
(郵稅四錢)

不許複製

著者兼發行人 高崎能樹

印刷者 東京市外西巢鴨町庚申塚一二六 澤田文雄

印刷所 東京市外西巢鴨町庚申塚一二六 學園印刷所

東京府下杉並町阿佐ヶ谷小山三〇

發行所

宗教々育圖書刊行會

振替東京五六五七四番

高崎能樹先生著

童話集 鈴

子供の個性や心理に叶ひ趣味と教訓の含蓄されたお話廿九篇

蘭

四六判一七〇頁
價九十錢 送料六錢

水の子物語

この不思議な物語の中からどうかよい智慧を澤山に學んで下さい

四六判一八三頁
價一〇圓 送料六錢

親のため 子供の心

奇抜で無邪氣な子供の言行を通して両親の教養上の失策を指摘す

四六判二五〇頁
價一圓八十錢 送料八錢

愛兒教養の實際

わが子の體育・智育・徳育について詳述す、子供教養の好き手引

菊判三五頁
價十五錢 送料二錢

月刊 雜誌

子供の教養

毎月一回一日發行 菊判八十頁
一部卅錢稅一錢・半年一圓八十錢

主筆高崎先生外十數名の専門家の執事による本邦唯一の基督教主義教育々兒雜誌

東京市外山阿佐 宗教々育圖書刊行會 振五 替六 東七 京四



